



歩きたくなるまち・ねりまの魅力

「まちを切り撮る」展開催中！！

【区民や大学生がねりまを歩いて撮った写真の展示】

と き 2月26日（金曜）から28日（日曜） 午前11時から午後6時

ところ 練馬文化センター2階ギャラリー（練馬1丁目17番37号）

26日から、練馬文化センター2階ギャラリーで、区民や大学生が身近なまちの魅力を撮影した「まちの切り撮る」展を開催している。これは、練馬まちづくりセンターが開催している『まちあるき「撮りあるき」』参加者や区内16カ所で行った景観資源調査で武蔵大学の学生が撮影した写真など約1500点を展示したもの。**フロではなく、あえて素人の目線で見たまちの風景から「歩きたくなるまち・ねりま」を感じてもらうことが目的。**

まちあるき参加者がデジカメで撮影した風景は、絵はがきにして一風変わった雰囲気を楽しめるほか、学生が撮影した写真は会場に敷かれた大きな練馬区の地図上に配置している。この日会場を訪れた方は「自分のまちなのに知らないところが多いと実感しました。とても興味深いです」と話してくれた。

また、期間中、会場内で、茅ヶ崎市で市民の視点で景観づくりに取り組む活動団体などと意見交換する「まちづくりカフェ」も開催する。



【地域景観資源調査と展示会】

練馬まちづくりセンターでは、昨年度より「地域景観資源調査」として、区民の視点から感じる身近なまちの気になる景観を収集する調査を行っている。その調査の一環として、公募区民による景観資源発掘・収集を兼ねた『まちあるき（撮りあるき）』を開催した。今年度は、12月から1月にかけて、3回のまちあるきを開催した（第一回：区境の風景（上石神井～立野町～武蔵関）、第二回：お正月の風景（氷川台～北町）、第三回：多様な住宅地の風景（春日町～田柄～光が丘））。毎回定員を超える応募があり、参加者が各自デジタルカメラを持ってまちを歩き、さまざまな風景を撮影した。

普段、何気なく歩いているまちでも、季節、時間、天気でさまざまな一面を見せてくれるということや参加者により興味・関心の視点が異なることなどを学んだ。まちあるきの参加者は「とても楽しかったです。こんどは自分のまちの風景を撮ってみようと思います」と話していた。

また、今年度は、地元武蔵大学永田ゼミの協力により、ゼミ学生16人が区内の駅を中心とした地区を分担し、景観資源調査を行った。

なお、現在、策定中の練馬区景観計画の素案では、基本目標として、「歩きたくなるまち ねりま」が掲げられていることから、同センターでは、本展を通じて、今後の練馬区の景観のあり方について、広く区民と議論する契機にしてほしいと話している。

会場では、まちあるき参加者の写真を絵はがきにして展示し、来場すると3点までプレゼントしている。また、ポストも用意し、その場で友人に送ることもできる。

また、会場中央に設置した巨大な地図には、来場者のオススメスポットを書き込めるようにしており、「ネコが多い」などのオススメ情報が書き込まれていた。

【同時開催 まちづくりカフェ】

● 第1弾 ●

協働で進める景観まちづくり【茅ヶ崎市の取り組み】

2月26日（金曜）午後6時30分から8時30分

ゲスト：高見澤 和子(まち景まち観フォーラム・茅ヶ崎 副代表)さん

市民サイドから茅ヶ崎の地域特性を活かした魅力的な景観を守り育て、住みよいまちづくりにつなげるための活動について聞く。

● 第2弾 ●

身近なまちの写真集【「銚子まぼろし」の取り組み】

2月27日（土曜）午後3時30分から5時30分

ゲスト：ひがし・ふみさん 袖山 裕子さん

『銚子大好き』な、ひがしふみさんと袖山裕子さんのふたりは、とうとう銚子の写真集「銚子まぼろし」を制作、自費出版してしまいました。銚子のまちの魅力と写真集制作秘話を中心に聞く。

● 第3弾 ●

大学生から見た練馬の気になる景観【地域景観資源調査報告会】

2月28日（日曜）午後3時30分から5時30分

ゲスト：永田 浩三（武蔵大学教授）さん 武蔵大学社会学部永田ゼミのみなさん

ゼミの学生16人が練馬区内に散らばり、まちのあちこちの写真を撮って・撮って・撮りあつめてきました！その写真の報告会を行う。

【練馬まちづくりセンター】

「練馬区まちづくり条例」に基づき、平成18年4月に区民のまちづくり活動の支援などを目的に開設。区民向けにまちづくりに関する情報提供や、講座・イベントなどの実施、相談窓口の開設、地域住民やまちづくり活動団体に対するアドバイスや職員・専門家の派遣、区民主体のまちづくり活動の費用の一部を助成するまちづくり活動助成事業などの支援を行っている。

【問い合わせ】練馬まちづくりセンター 電話：03-3993-5451